

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		効率的な環境規制のための事前評価、リスク評価の手法に関する日米比較研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Comparative study of risk assessment and impact analysis in Japan and the U. S. for better environmental regulation making			
研究氏 代 表 名 者	カカナ CC	姓) ナカイズミ	名) タクヤ	研究期間 B	2010 ~ 2011 年
	漢字 CB	中泉	拓也	報告年度 YR	2012 年
	ローマ字 CZ	Nakaizumi	Takuya	研究機関名	関東学院大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		関東学院大学・経済学部・教授			
概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)					
<p>本研究は米国カリフォルニア大学サンディエゴ校に滞在中の中泉が、米国の規制影響分析の最新の動向をフォローすると同時に、米国の環境経済学の研究をふまえ、最新の研究のフォローアップを行い、岸本がリスク評価を含めた我が国の動向をフォローする形で日米の国際比較を行うものである。</p> <p>まず中泉は、2009年に米国の規制の事前評価の中で、競争分析の動向に着目した調査を行い、公正取引委員会の報告書や公正取引(2011)にまとめている。今回はそのフォローアップも兼ね、米国環境保護庁での最新の規制影響分析の動向についてヒアリング調査した。特にこれまでよりも便益に関する評価が向上し、従来よりも費用便益分析に信頼が高まったこと、競争分析を経済影響分析の中でシステムティックに考察するようになったことが際立った進歩であると考えられる。更に、今回のヒアリングでは Resource for the Future 等の NPO や大学の研究機関の研究者から中立的な観点の意見も聞くことが出来た。そこでは、NRC や SEC といった一部の委員会以外は、米国の独立規制委員会の経済分析が十分でないという指摘が有益であったのに加え、RIA のスコアカードの重要性に付いても指摘を受けた。</p> <p>更に、UCSD 滞在中に、NOAA のプロジェクトの外部の研究員 Dr. Ruckelshaus とディスカッションをしたのに加え、UCSD の The Center for Environmental Economics のセミナーに参加し、Richard Gason, Theodore Groves Mark Jacobsen といった教授とディスカッションした。その一環として、従来から行ってきた Top runner program のエコラベルの効果について、UCSD IR/PS の Junjie Zhang 教授とディスカッションを行い、WEAL の San Diego 大会(2011)で報告した論文の拡張を検討した。</p> <p>これらの成果は、上記 UCSD でのワークショップでの報告に加え、WEAL といった国際学会の報告や上述の公正取引委員会の報告書に加え、季刊評価クォーターへの投稿と、総務省中央研修での講演等、広く政策決定の改善にもつながっている。</p> <p>また、岸本は、環境や安全規制のベースとなるリスク評価手法について、物質や材料の分野だけでなく、技術や製品までスコープを広げて、評価枠組みの比較を行った。大学授業や研修などにおいて、規制影響評価の講義を行うとともに、米国デューク大学の Wiener 教授を招いて、規制影響評価のセミナーを東京大学で開催した。</p>					
キーワード FA	規制影響分析	経済影響分析	認知バイアス	リスク評価	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	規制作成における規制影響分析 (RIA) の重要性- 米国の事例を参考として- (仮)							
	著者名 <sup>GA</sup>	中泉拓也	雑誌名 <sup>GC</sup>	季刊評価クォーターリー					
	ページ <sup>GF</sup>	TBA	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	2	巻号 <sup>GD</sup>	23
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	米国における規制が競争に与える影響の把握・分析手法について							
	著者名 <sup>GA</sup>	中泉拓也	雑誌名 <sup>GC</sup>	公正取引					
	ページ <sup>GF</sup>	35~43	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	1	巻号 <sup>GD</sup>	733
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	安全・安心の追求とリスク評価の役割							
	著者名 <sup>GA</sup>	岸本充生	雑誌名 <sup>GC</sup>	計測と制御					
	ページ <sup>GF</sup>	655~670	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	0	巻号 <sup>GD</sup>	49(10)
図書	著者名 <sup>HA</sup>	中泉拓也							
	書名 <sup>HC</sup>	競争評価報告書 II							
	出版者 <sup>HB</sup>	公正取引委員会	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	2	総ページ <sup>HE</sup>	
学会報告	著者名 <sup>HA</sup>	Takuya Nakaizumi, Kainou Kazunari							
	書名 <sup>HC</sup>	Evidence of Cognitive Bias Caused by Eco-Labeling—Japan Top Runner Program Case							
	出版者 <sup>HB</sup>	WEAI San Diego	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	1	総ページ <sup>HE</sup>	

#### 欧文概要 EZ

This project is the comparative research of U.S. and Japan regarding Economic Analysis, competition analysis and risk assessment of regulation. Nakaizumi, staying UCSD, mainly research the U.S. while Kishimoto focuses on Japanese government, In the U.S., Nakaizumi attended the workshop of UCSD environmental economics group and discussed Economic analysis of Environmental Regulation and how to estimate benefit of the regulation with Environmental Economist of UCSD such as Professor Richard Cason, Theodore Groves and Mark Jacobsen as well as NOAA researcher Dr. Ruckelshaus.

And Nakaizumi visited Washington DC and had several interviews in EPA, RFF and Marctus Center. We find the progress of evaluation to monetize the benefit and competition analysis within economic impact analysis in EPA. We also find the weakness of economic analysis conducted in Independent Regulatory Commission except NRC, SEC.

Nakaizumi also presented the paper at San Diego WEAI conference regarding cognitive bias of Eco-labeling of Japan Top Runner Program and discuss the extension of the paper with Prof. Junjie Zhang of UCSD IR/PS.

Kishimoto, on the other hand, explores risk analysis not only for material but final goods and specific technology. Kishimoto made some presentation at several Universities and call Professor Winner to Japan and have him make an presentation at Tokyo University.